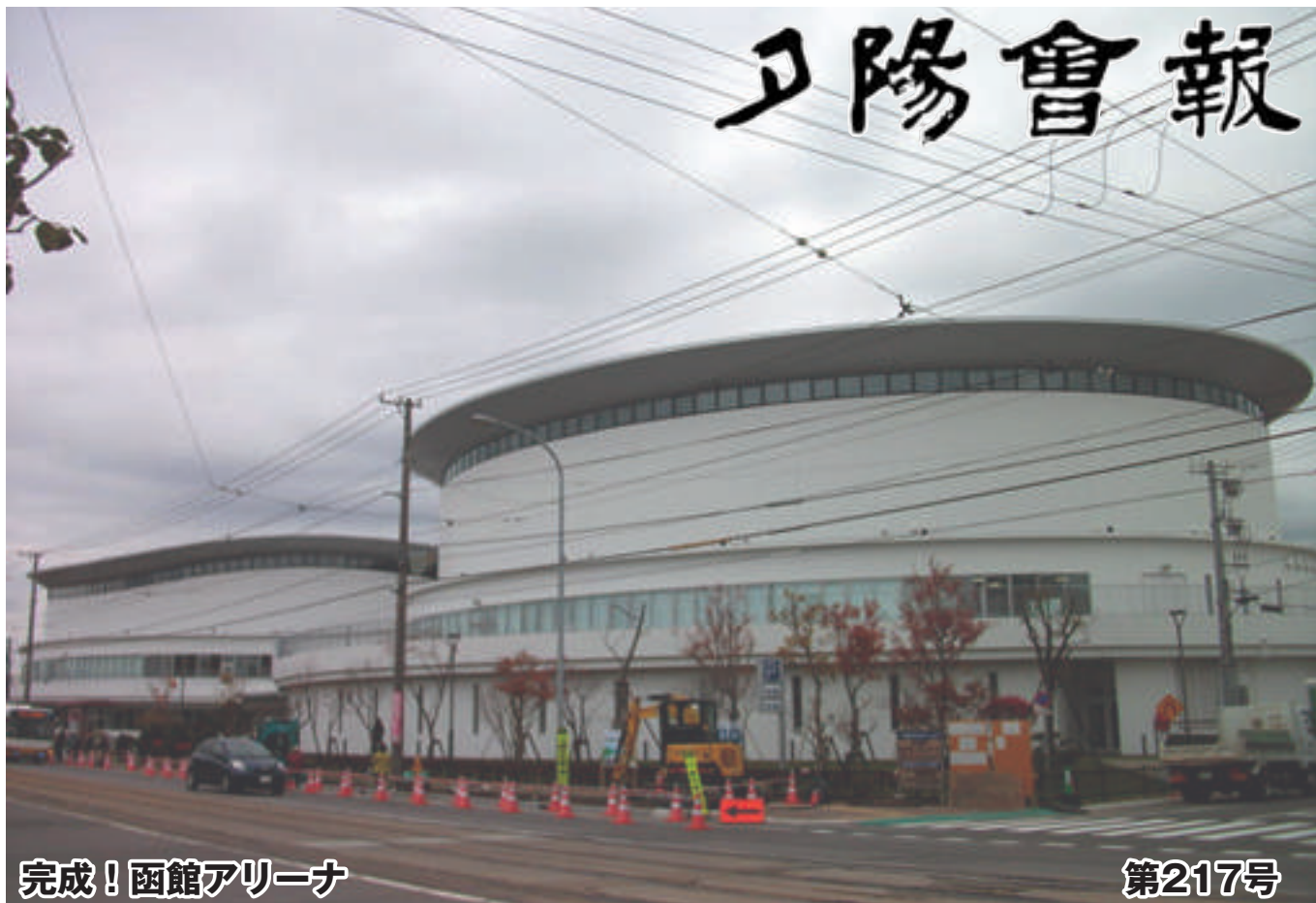


夕陽會報



完成！函館アリーナ

第217号



◇巻頭言◇

夕陽群像に想いを馳せて

参与 小林 周次

(昭和33年卒)

教師としての生き方は最初の赴任校が影響するといわれるが、私の場合もそのことは当てはまる。

私の教師の出発は十二学級規模の知内村立(現在の知内町立)知内小学校である。着任六年目の時、知内村教育研究所(知内小が担当事務局)所長の菊地源三校長先生(函師第八回生の大先輩)から校内で一番末輩の私が研究部長に指名され驚いた。なんとか村内小・中学校九校を束ね研究推進の企画・運営に携われたのは、「オマエが研究部長を引き受けて頑張れ」と叱咤激励いただいた同僚で学芸大学函館分校出身の前川一郎、加納正敏、松本雅彦、澤田敏美、近堂俊行の先輩の方々のおかげであつた。この先輩諸氏といつしよに実によく飲み、語りあえたことが研究推進のエネルギーになった。

そうした勢いが、七年目に知内小単独で渡島管内小・中学校参加を対象にした自主公開研究会開催に結びついた。当時の渡島教育界では画期的なことであつた。知内小でのこうした体験は、私のその後の教職生活、とりわけ研修姿勢を確立するうえで大いに滋養となるのである。八年目の時、北海道教育委員会に教科推進員制度なるものがあつて、私は小学校社会科教育推進委員(任期三年間)に委嘱された。この研究は北海道や全国的視野にわたっての社会科教育研究で、とても収穫の多い勉強の機会であつた。

九年目に亀田町立(現在の函館市立)亀田小学校に異動。引き続き教科推進委員二年目で、本州の研究推進先進校視察を行い、北海道の社会科教育推進員五名とともに千葉県を中心に数校の学校を視察した。そのときの引率責任者が当時後志教育局指導主事の安達整先生(二師昭和22卒)であつた。私のみ学芸大函館分校出身ということ、ひとり宿泊旅館

の安達先生の部屋で夕陽会のお話なども伺ったりして、とても為になる楽しい意義あるひと時を過ごしたことは今でも鮮明である。

赴任二校目、当時の亀田小(殆ど夕陽会員)は名だたる研究推進校で、函館市合併前の八年間は毎年自主公開研究会を経験する研修環境の中、授業のあり方を同僚と徹底的に切磋琢磨し授業道のようなものを身につけたような気がしている。この授業道がその後の教員生活や平成十年に定年退職後、現在まで教育大函館校非常勤講師として勤務し、進路開発担当講座で教える根本原理となっている。

私はここ数年、教員採用試験に苦戦している期限付臨時教員を支援すべく教員採用試験対策セミナーを、伊藤皓嗣先生(夕陽会副会長)の豊富な教育知も借りながら、教育大函館校キャンパス長星野立子様はじめ職員の皆様方のご好意により函館校を会場に行っている。このセミナーには夕陽会橋田恭一会長様や幹事長時代の奥崎敏之様(檜山教育局)などが時折訪れて、受講生に温情ある激励を賜り、一同は函館校や夕陽会に感謝の念を深くしているのである。

私が現在の立ち位置にあるのは、すぐれてこれまでの教職生活や生き方の道筋に大いなる示唆を与えてくれた金山正智先生(夕陽会参与)をはじめ、枚挙に遑がないほど男女を問わず夕陽の先輩、同期、同僚、後輩の方々のご支援のおかげである。まさに夕陽群像の存在に外ならないのである。

まことに報恩謝徳、いまだし「この道より我を生かす道なし、この道を歩く」(実篤名言)の心境で、アンチエイジングに息づいていこうと思っている。

創造し行動する夕陽会

第10回

夕陽書道展

2015. 11. 5[木]～11. 9[月]



第十回夕陽書道展を終えて

夕陽会 文化部長 新 濱 美喜子
(昭和54年卒 函館市立千代ヶ岱小学校長)

二十一月五日から九日までの五日間の日程で、函館市芸術ホールギャラリーを会場として「第十回夕陽書道展」が開催されました。

今回は、最高齢の九十四歳で鎌倉市在住の野澤等平（太極）様をはじめ、全国・全道でご活躍されている七十三名の皆様が、漢字・近代詩文書・仮名・墨象・篆刻等と、各分野から個性豊かな意欲作を出展してくださいました。大作も多く、第十回目の節目にふさわしい夕陽書道展の開催となりました。期間中には、各地より多くの卒業生のご来場をいただき、約六百人の来場者を数えました。連日のように会場内では、懐かしい友の姿に歓喜し旧交を温め合う様子が見られ、和やかな心温まる書道展となりました。

金子鷗亭氏、太田鶴堂氏、永田青雲氏等、旧母校各教官の作品も出展され、単独開催十回目の節目となる夕陽書道展に花を添えていただきました。

終わりになりますが、鈴木孝徳実行委員長（市立函館高校）はじめ各実行委員会の皆様、活動を支えてくださいました諸先輩の皆様、心より感謝申し上げます。また、今回の書道展開催に際し作品出展をはじめ、何かとお世話をいただきました橋田恭一夕陽会会長をはじめとする夕陽会員の皆様に、深く感謝申し上げますとともに心よりお礼を申し上げます。



受賞(章)おめでとうございます

*瑞宝双光章(高齢者叙勲8/1)

沢野 久亭氏(昭23年卒)

札幌市西区西町北六の二の三

*瑞宝双光章(高齢者叙勲9/1)

松尾 忠雄亭氏(昭23年卒)

札幌市中央区南八西一八の二の三四の二〇五

*瑞宝双光章(高齢者叙勲10/1)

木村 淳一亭氏(昭25年卒)

札幌市手稲区星置二の三の一二の八

*瑞宝双光章(高齢者叙勲10/1)

赤泊 昭吉氏(昭23年卒)

函館市銭亀町二四五の三九

*瑞宝双光章(高齢者叙勲10/1)

鈴木 利幸亭氏(昭23年卒)

函館市美原三の六の三

*瑞宝双光章(高齢者叙勲10/1)

中村喜久蔵亭氏(昭23年卒)

島原市下川尻町八三五の四一〇

*地方教育行政功労者

文部科学大臣表彰

鈴木 清二亭氏(昭39年卒)

七飯町大中山二の三の二一

*更正保護功労者

法務大臣表彰

中山 昭一亭氏(昭36年卒)

函館市東山二の四〇の五

*平成二十七年年度

北海道教育功績者表彰

八木 裕亭氏(昭53年卒)

函館市立昭和小学校長

*平成二十七年年度

北海道教育功績者表彰

久保田達也亭氏(昭55年卒)

新ひだか町立高静小学校長

*平成二十七年年度

北海道教育功績者表彰

反保 秀規亭氏(昭55年卒)

苫小牧市立豊川小学校長

会務報告



幹事長

永井 貴之

(昭和63年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》

6/21 通信陸上夕陽会長杯の贈呈が行

われる。(函館)

6/22 辻局長と橋田会長・永井幹事長

が懇談する。(函館)

6/24 寺島乙部町長と橋田会長が懇談

する。(乙部)

7/17 渡島支部支会長・幹事長会議に

橋田会長が出席する。(七飯)

7/25 夕陽明日の教師養成塾が開催さ

れる。(函館)

9/9 本間学長と橋田会長が懇談する。

(函館)

9/19 五分校会長・幹事長会議が開催

され、橋田会長・永井幹事長が

出席する。(釧路)

9/28 本間学長退任慰労会に橋田会長

が出席する。(札幌)

10/3 指導主事等会の学習会が開催さ

れ、橋田会長と永井幹事長が出

席する。(札幌)

10/17 道央ブロック会議が開催され、

橋田会長と白川副幹事長が出席

する。(千歳)

10/19 蛇穴学長と橋田会長が懇談する。

(函館)

11/5 夕陽書道展が開催される。

(函館)

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

6/25 木古内支会総会に永井幹事長が

出席する。(木古内)

6/27 首都圏支部総会に橋田会長、永

井幹事長が出席する。(東京)

7/3 福島支会総会に天野副会長が出

席する。(福島)

7/10 七飯支会総会に橋田会長が出席

する。(七飯)

7/15 長万部支会総会に永井幹事長が

出席する。(長万部)

7/16 森支会総会に橋田会長が出席す

る。(森)

8/8 39年同期会に橋田会長が出席す

る。(函館)

8/22 鶴岡会渡島が開催され橋田会長

が出席する。(函館)

9/26 高校支部総会が開催され、橋田

会長が出席する。(函館)

11/7 体育研同窓会総会が開催され、

天野副会長が出席する。(函館)

函館渡島北師同窓会総会が開催

され、永井幹事長が出席する。

(函館)

11/21 岩手支部総会が開催され、永井

幹事長が出席する。(北上)

道南地区六稜会交流会が開催さ

れ、繪面副会長が出席する。

(函館)



熟年を楽しむ 健康が一番！

監 査 近 藤 健

(昭和41年卒)

過日夕食後、テレビ番組を見て、まったりと過ごしていたとき突然の電話。受話器の向こうから「橋田です。今、録画しておいた登山番組を見ていたら、CMに近藤さんが出ていたけれど、どうしたの！」と・・・。「実は、昨年六月ごろ教え子から、元気なお年寄りを紹介してほしいと依頼があり、後日その子がエージェントと来訪して色々話しているうちに、自分が出演する羽目になってしまいました」と話すと「そんなエピソードがあるなら夕陽の会報に寄稿してくださいよ！」と言われこの原稿を書いています。

CMは、昨年八月に東京から十名ほどのスタッフに来て、我が家の車庫前で撮影されました。最初に作られたCMは、昨年十二月から今年三月までBSの番組の中で、榎ファイザーの提供で「こどもの夢・おとなの夢」と言うタイトルで放映されました。今回、橋田会長が目にしたCMは、BSや地上波でも放映されている「椅子に座って」と言うタイトルで、加山雄三が話す高齢者の肺炎予防球菌ワクチン接種を促すもので、バイクに跨り一瞬登場します。

最近、知り合いから時々、「CM見たよ！」と言われます。先に放映された「こどもの夢・おとなの夢」で話す私の夢は、「七十才。夢はハーレーで日本一周」でした。

日本経済新聞にも二〇一四年十一月二十六日付で写真が掲載されました。そこ



で、その夢を実現すべく手始めに、今年七月二十七日から八月三日まで、北海道一周バイク単独ツーリングを決行しました。天候に恵まれ広大な大地をひた走ること七泊八日間。ご当地グルメをいただき、様々な景勝地をめぐり、教え子を訪問し全行程二千六百五十四キロの非日常的生活を楽しんできました。後日、旅日記を書いてみたいと思っています。

CMとツーリングに関しては、「函館ライフスポーツ」のホームページで見ることが出来ます。

その「函館ライフスポーツ」ですが、三十七年卒の畠中三喜夫氏と私を含む仲間数名で立ち上げた中高年のスポーツクラブで、スキーをメインに通年で活動している平均年齢七十一才で構成される会員百名の生涯スポーツクラブです。とにかく皆さん年齢の割に行動も考え方も若



く、多い時には常時六十名を超える会員が活動しています。スキー以外にも、登山二回（担当：坂口一弘さん）パークゴルフ二回（担当：鈴木清二さん）ゴルフ



二回（担当：福田肇さん）グルメツアー不定期（仕掛け人近藤健）など多彩なメニューで会員の健康促進や親睦交流を図っています。スキーは七飯スノーパークでの研修七回と、練習成果の確認のため一泊でルスツに遠征します。それら活動の様子は、「函館ライフスポーツ」のホームページで動画も見られる様になっていますので是非ご覧ください。

また、そのような活動に興味と関心のある方は一緒に活動しませんか！

そんな訳で、退職後は人々に囲まれ、スポーツ以外にも山野草栽培・家庭菜園春の山菜・秋のキノコ、海釣り・川釣りと趣味を生かし、元気に楽しい人生を送っています。

夕陽100年の足跡

特集「1枚の写真」から(1)

昭和16年春 武道場での練習風景（柔道・剣道）

（資料提供・乳井邦衛氏－函師昭和19年卒）



昭和16年秋・柔道場での練習風景（当時乳井氏は柔道部3年生）

乳井氏のアルバムに残っている

当時のコメントには…

「柔道部に入部して三年、三年間の猛練習の甲斐あって十一月の審査会で見事、初段になった。

いよいよ来年度は四年生中堅部員として頑張らねばならぬ時が来る。

下級生の指導と共に我等同期もその腕を一生懸命磨いていこう」

と書かれていました。



昭和16年秋・剣道場の練習風景

（写真中に指導教員・工藤惣之助先生の立姿あり）

教壇で活躍する若き夕陽教師たち



たくさんの支えの中で

船橋 昂己

(平成27年卒 知内町立知内小学校教諭)

この春、北海道教育大学函館校人間発達専攻教育学分野を卒業し、四月から知内町立知内小学校で勤務しております。

教員として、新社会人として、学校という場で子どもたちと関わり始めてから約半年が経ちますが、全てが初めて経験することばかりであり、不安に思うことや戸惑うことがたくさんあります。その中で、周りの先生方、保護者の方々、地域の方々に支えられながら、子どもたちと一緒に充実した毎日を過ごしています。

先にも述べましたが、この半年、本当に現場で実践して初めて知ることが多々ありました。目を見張るような子どもたちの成長、授業構成の難しさ、発問・説明・指示の明確化、対話の難しさやおもしろさ、学校組織の一員としての役割、保護者や地域との連携など、大学の講義や実習ではわからないことばかりでした。しかし、そんな時にいつも、校長先生、教頭先生をはじめ、先輩の先生方が授業について、子どもたちとの接し方について、時には優しく、時には厳しく、適切な助言をしてくださります。本当に先生方への感謝の気持ちは絶えることがありません。

そして、初めてのことで戸惑ったり、わからなくなってしまうたりした時にいつも勇気を与えてくれるのが、子どもたちの言葉と笑顔です。子どもたちの言葉

を聞いたり、笑顔を見たりすると、いつも、「子どもたちの笑顔や達成感のためにもっと頑張ろう。」とやる気や情熱を引き起こしてくれまます。また、子どもたちは言葉や様子、行動で様々なことを教えてくれます。子どもたちの姿から様々なことを学んでいる自分自身に気づくことも、「教師の道を選んだのは間違いではなかった」と実感しています。

感謝の気持ちを忘れず、多くの方の支えに応えて、子どもたちに学ぶ楽しさを伝え、子どもたちの可能性を引き出せる教師になれるよう、これまでの学びの一つを確実なものにしていくとともに、これからも常に学び続けていかなければなりません。

まだまだ未熟者の私ではありますが、これからも子どもたちの成長に関わっていくためにも、学習指導や生徒指導、学級経営に日々精進し、長期的な視点で指導を考えることができるよう自己研鑽に励んでいく所存であります。社会人として、教職に携わる者として、子どもたちの可能性を伸ばしていきけるように専心して参ります。

最後になりますが、夕陽会の諸先輩方の皆様には今後ともお世話になることと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、何卒、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



子どもと向き合うこと

野登 結花

(平成27年卒 北斗市立大野中学校教諭)

本年春に大学を卒業し、現在、私は北斗市立大野中学校にて勤務させていただいております。四年間お世話になった渡島管内で、夢であった教員人生をスタートできたことを、大変嬉しく思うとともに、数学教諭として、また学校の組織の一員として、やりがいと責任の重さを感じながら教壇に立っています。今私は、全てが初めての体験で、日々勉強しているところです。校長先生、教頭先生をはじめ、先輩の先生方や保護者の方々には様々な場面で助けていただき、感謝でいっぱい毎日です。日常の忙しさもありますが、生徒と関わる時間がとても楽しく、改めて環境に恵まれているなと感じています。

教壇にたつて七ヶ月がたちますが、一番大変なことは、子どもと向き合うことだと感じています。勉強に関心を持つてもらうような言葉かけや教材、子どもがどう予想し何を考えるかを見越した授業展開など、子どもと向き合うといっても様々な方向から考えることができ、日々の自らの無力さを痛感しています。初めのうちは、どれが正しいことがわからず、自分自身がぶれているときもありました。

また、失敗を恐れて無難に逃げて後悔し、ぶつかることを避ける自分もいたと思います。ですが、そんなときに先生方から適切な助言をいただき、「失敗とは何もや

らないこと」だということを教えていただきました。様々なことに挑戦し、とにかく自分の思った通りにやってみよう、と前向きに考えることができ、そう思い直したことで、少しずつではありますが、子どもたちにも私自身にも良い影響が還元されていると今は実感できます。そしてその言葉を、今度は私自身が子どもたちに伝えていきたいと思っています。反対に一番楽しいと思うことは、これもまた子どもと向き合うことだと感じています。学校生活においての子どもたちとの会話はもちろん、何かに熱中して一生懸命頑張っている姿が見られたり、表情や心に成長が見られたり、その一瞬が見えた際はとても嬉しく喜びを感じます。

これからも、授業に到達点はないと思いつながら日々過ごしていきたいと思ひます。一〇〇点満点の授業はないですし、反対に、もっとこうすれば良かったという授業は数え切れないほどあります。だからこそ、私はこれからも子どもと向き合い、子どもにとってよりよい指導、よりよい活動を追究し、努力していきたいと思っています。

最後になりますが、夕陽会の諸先輩方の皆様には今後ともお世話になることと思います。その際には、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



今できることを

田中 麻理

(平成27年卒 函館市立高盛小学校養護教諭)

この春、北海道教育大学函館校養護教諭特別別科を修了し、四月より函館市立高盛小学校で勤務しております。児童数一七五名と小規模の学校ではありますが、社会に出ること、学校で働くこと、すべてが初めての私にとって、毎日が新鮮で学びの多い日々です。

「子どもの成長に携われる」ということに最大の魅力を感じ、志した教員という道。その中でも「子どもたちが心身ともに元気に登校できるようにしたい」という願いを持ち、養護教諭を目指しました。他の先生方と比べ、子どもたちと接する時間は短いですが、朝や帰りには玄関で子どもたちと挨拶や会話をして、積極的に関わるようにしています。短い時間でも毎日続けることで、「今日は元気がないな」「昨日よりも体調が良さそうだな」と、小さな変化を感じることができるようになりました。

しかし、仕事をしていく中で悩み、自分の無力さに悔しくなることもあります。この子には、どんな関わりが必要なのだろう？どんな言葉をかけてあげればいいのか？一つの体調不良でも、抱えている背景は様々で、単に体の不調だと決めつけられません。一時間話を聞くことで、元気に教室に戻っていく子どももいます。なぜ保健室に来たのかを考え接していますが、うまく関わることはできな

いこともあります。そんな時、いつも先輩の養護教諭の先生や、高盛小学校の先生方、実習を通してお世話になった先生方など、多くの方から温かい言葉をいただき、支えられ、働くことができています。養護教諭はほとんどが学校に一人で配属されるため心細いと感じることもあります。ですが、先生方と連携することで、よりよい関わりができると実感しています。学生時代から今日まで、本当に恵まれた出会いや環境に感謝しています。先輩の先生方に比べ、できないことも多いですが、今できることを、今しかできないことを精一杯やっていきたいと思っています。子どもの笑顔は私の原動力です。養護教諭になってよかったなと思う一番の瞬間です。子どもたちが笑顔で過ごせるよう、私自身も笑顔を保ち、一人ひとりに寄り添い、心身の健康を守っていきたいと思います。そして、子どもや保護者の方、先生方からも信頼される養護教諭になれるよう、今後も学び続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、夕陽会の諸先輩方には学生時代から大変お世話になっており、感謝の気持ちでいっぱいです。今後もお世話になることと思いますが、何卒、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



養護教諭の魔法の力

工藤 早稀

(平成27年卒 北海道教育大学附属函館幼稚園養護教諭)

私は、平成二十七年三月に北海道教育大学養護教諭特別別科を修了し、四月から北海道教育大学附属函館幼稚園で勤務しております。教員として半年経ちましたが、毎日が初めてのことはかりで不安や失敗が多く、先生方には迷惑ばかりかかっていると思います。しかし、優しくご指導して頂きながら、五十二名の元気な子どもたちと楽しく充実した日々を過ごすことができています。

私の小学生の時の夢は幼稚園教諭になることでした。中学生になると夢が養護教諭に変わり、実現に向けて看護学校、北海道教育大学函館校に進学しました。現在、私は夢が二つ叶ったようで毎日幸せを噛みしめています。

しかし、実際には幼児の養護を司ることの大変さを改めて実感し、背筋が伸びる思いです。それはまた、自分の気持ち表現することが未熟な幼児に寄り添うことはとても難しいことだと感じるからです。泣いているのは痛いからなのか、驚いたからなのか、悲しいからなのか…。私には知識や経験も不足しているため、まだ幼児理解ができていません。性格や

環境など広い視野で子どもを捉え、子どもの目線に立ちその思いを汲み取ることのできる養護教諭になれるよう、この幼稚園で学んでいきたいです。

幼稚園で働いて、救急絆創膏には魔法の力があるということも知りました。子どもは転んだと言って私のところに救急絆創膏を求めて来ます。私が救急絆創膏を貼ると、ついさっきまで泣いていた子が「ありがとう」と言い、元氣にお部屋に帰っていきます。でも、これは救急絆創膏の力だけではなく、養護教諭もその力を持っているのではないかと、私は思っています。幼稚園では心を育む場です。その心の教育に養護教諭として携われることを嬉しく思うと共に、責任の重さを感じ、残りわずかな日々をより一層大切に過ごしていきたいと考えています。私の周りには夕陽会の先輩方が多く、大変お世話になっていきます。この感謝の気持ちを恩返しできるように、まずは夢を本当の意味で実現させるところから始めたいと思います。これからご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



癒やしの場所となるために

上 平 香 澄

(平成27年卒 函館市立西中学校養護教諭)

この春、北海道教育大学養護教諭特別
別科を修了し、四月から函館市立西中学
校で勤務しております。

養護教諭として、学校という教育の現
場で生徒たちと関わり始めて半年がた
ちました。初めて経験することばかりで、
戸惑ったり不安に思うことも多々ありま
すが、周りの先生方のご指導やご助言を
いただきながら、一一一名の生徒とも
に毎日充実した日々を過ごしております。
私が養護教諭になって実感したことは、
毎日が学びと気づきの連続だということ
です。応急処置やカウンセリングなど、
日々書籍を読んだり、研修会に参加して
学びを深めることももちろん重要だと思
います。しかし、生徒一人一人と関わり、
その関わりの中から生徒に教えられるこ
とや気付かされることも多いこと
を感じています。生徒たちは、保健室内
で見せている顔と教室内で見せている顔
の両面を持っており、そのどちらも知っ
て初めて、生徒一人一人と向き合い関わ
ることができると思います。そのため、
保健室にとどまらず、廊下で声をかけて
雑談をしたり、時間のある時には校内を
回り教室内の生徒の様子もみていくこ
とで、保健室に来室した時「いつもと違
う」という些細な変化や、生徒が出すS
OSに気付くように心がけています。

保健室だけではなく、学校での生徒と
の関わりは私にとって、とても大きな力
となっています。「保健室の先生」ではな
く、「上平先生」と呼んでくれる笑顔溢
れる生徒から元気をもらうことも多くあ
ります。また、「先生聞いてよ!」「先生
にはさ、なんか何でも話せるんだよね。」
と言ってくれる生徒もいます。素直で心
優しい生徒を目の前にすると、今の自分
にできることは何か、生徒たちが健康で
安全に学校生活を送るために何をするべ
きなのかを考えさせられます。

養護教諭として学校全体の健康安全管
理や保健指導などを実践し、本当にこの
判断や指導で良いのだろうかと思うこと
もあります。それは、私がまだまだ経験
も知識も技術も不十分であるからだと思
感しています。そのため、これからの教
員生活の中で、今抱えている生徒たちへ
の思いや学び続ける姿勢を忘れず、そし
て生徒が安心していられる「心とからだ
の居場所」となれるように日々精進して
いきたいと思っています。

夕陽会の諸先輩方には、学生の頃より
大変お世話になり、感謝の気持ちでいっ
ぱいです。今後ともお世話になることと
思いますが、何卒、ご指導・ご鞭撻のほ
どよろしくお願い致します。

第10回 夕陽美術展のご案内

日 時 平成28年9月16日(金) ~20日(火)
会 場 函館市芸術ホールギャラリー

平成28年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 平成28年6月25日(土)

◆会 場 函館国際ホテル

(函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151)

- ・平成28年度 全国支部長会議 13時30分~15時30分
- ・平成28年度 総 会 16時~17時
- ・平成28年度 大 懇 親 会 17時30分~20時

支部の歴史をふりかえって



首都圏支部の更なる発展のために

首都圏支部長 相川 哲也
(昭和55年卒 大田区立東調布第一小学校長)

夕陽会とのかかわりは、大学を卒業した昭和五十五年に神田駅近くにある「華福」という中華料理屋で行われた夕陽会東京支部総会に、石田氏(昭和五十五年卒・現日野市立日野第一小学校長・現幹事長)と二人で初めて参加させていただいたことが始まりでした。当時は、五十名以上の諸先輩方が総会及び懇親会に出席しており、酒を酌み交わしながら、教師の心構えやこれからの教育のあり方などを気さくに、そして熱く話していた。いた事が、昨日のことに思い出されます。会の終りには、「巴湾の水の精をくみ、亀田の森の霊をとり…」と、必ず寮歌を五番まで高々と歌うことが恒例となっていました。その度ごとに、桐花寮で四年間過ごした私にとつては、会に参加するたびに夕陽会員であるとともに、桐花寮生であったという自覚を改めて抱いたものでした。それ以来、支部総会及び懇親会には、必ず参加させていたでいていました。以来、早いもので三十五年以上の年月が経ってしまいました。

さて東京都は、団塊の世代の影響もあり、ここ数年は、幼・小・中・高・特支合わせて毎年二千人以上の新規教員を採用しています。それは首都圏にある埼玉県や千葉県、あるいは神奈川県でも同じような傾向にあります。そのため、教員数を確保するため、「教員にでもなるか…」という安易な考えの者まで採用せざるを得ない状況にあります。二十一世紀型の学力が問われ、アクティブ・ラーニング(能動的学習)が求められている時期にもかかわらず、教員の質の低下が目立ち始めていることに、危惧を抱いています。その意味からも、教員養成系の大学である母校から、教員をめざす質の高い受験者が、一人でも多く首都圏を受験することを心待ちにしているところです。

しかし、近年の大学の法人化とキャンパス再編の変革期の中、母校である北海道教育大学函館校は、創立以来続いてきた教員養成の募集を減らさなくてはならない状況になっていることは寂しい限りです。そのため、支部の会員を増やせるよい機会であるにもかかわらず、教職を志す者は、減少の一途をたどっているのが現状であり、残念に感じているのは、私だけではないと思います。また、首都圏で教壇に立っている若い夕陽会員の中には、函館校の同窓であるという意識があまりなく、総会などへの参加率も年々減ってきているのは、残念で仕方ありません。その現状は、東京支部だけでなく、近隣の埼玉県や千葉県でも同じ現状であることは言うまでもありません。そのため、若い人たちへの総会などへの参加率を上げ、同窓生であるという意識を高めるための手立てを試行錯誤しながら講じてきました。

その一つは、本部からも助言をいただ

きながら、元杉本千葉支部長や前高橋東京支部長などと話し合い、「一度、首都圏合同の懇親会を行って、会員の掘り起こしながら、親睦の輪を広げていってはどうだろうか。」という結論に達しました。その結果、多くの方のご尽力をいただきながら、平成二十一年一月に夕陽会関東各支部の合同懇親会を開催することができました。当日は、本部から橋田会長様や元須藤幹事長様のご臨席を賜るとともに、東京都や埼玉県、千葉県は勿論、支部のない神奈川県や山梨県からも卒業年度を越えて、夕陽の仲間が渋谷にある東武ホテルに集い、大学時代の思い出話に花を咲かせたり、各支部の現状や課題について話し合ったりしながら、親睦を深めることができました。その中で東京都・千葉県・埼玉県合同支部の総会を行ったらどうだろうという気運が高まり、平成二十一年七月に首都圏(関東一都六県及び山梨県を含む)支部として、正式に第一回総会を開催することができました。それ以降、現在まで首都圏支部として、年一回の総会及び懇親会を六月の最終土曜日に開催しています。

二つめは、十年前より東京支部では、教員採用二次面接試験を受験する学生や同窓生を対象に、面接受験前に最低二回の面接練習を行ってきました。新規採用教員の面接経験のある校長が、東京の教育問題や教員としての意欲、あるいは具体的な課題についての取り組み方などを、時間をかけて一人一人に指導してきました。時には、午前十時から午後八時まで、徹底して指導したこともありましたが、幸いにも、毎年複数の合格者が生まれ、各区市で夕陽の名を辱めずに頑張っているという情報が複数聞こえてくるのは嬉しい限りです。本校でも縁があつて、一昨

年東京都に採用になった夕陽会員が、教員として着任し、日々子供たちのために教壇に立ち頑張っています。

また、平成二十二年からは、東京都だけでなく、埼玉県や千葉県、あるいは、政令指定都市である横浜市やさいたま市などの面接傾向や模擬授業などの試験内容の情報を確認した上で、面接練習を実施しています。その結果、左記のような合格結果を出しています。

二十二年度…東京7名、千葉2名
二十三年度…東京4名、茨城1名
二十四年度…東京3名、埼玉1名
千葉2名、横浜1名
二十五年度…東京3名、千葉1名
二十六年度…東京2名、千葉2名
さいたま市1名
二十七年…東京3名

(東京都の期限付合格者を含む)

今後は、一般企業などに就職した夕陽会の会員を本部の協力を得ながら発掘し、会への参加を呼び掛けていきたいと考えています。また、夕陽会を中心に、札幌校、旭川校、釧路校、岩見沢校出身の管理職にも声をかけ、北海道教育大学としての仲間意識を育てていければという大きな考えも幹事長とともに企画したいと思っています。

それにしても、現在まで首都圏支部がこのように続いてきたのは、先輩諸氏の努力と恩師の方々の温かな支援があつたことは言うまでもありません。特に昭和二十四年卒の故佐藤弘氏先生の夕陽会東京支部に対する取り組み方やその思いは、現役員の指針ともなっています。

今後、多くの諸先輩の思いや願いを大切に、本部をはじめ各支部の皆様のご指導をいただきながら、夕陽会首都圏支部がより発展していけるよう努力していくことをお誓いし、本拙稿の締めくくりにさせていただきます。

北海道函館師範学校

- 1912(明治45)年6月 ○ 北海道函館師範学校設置を文部省が認可
 2 14(大正3)年2月 ○ 北海道函館師範学校長に和田喜八郎氏就任
 4月 ○ 校舎・寄宿舎竣工
 ○ 第1回入学式挙行(本科第1部2学級80名)
 4 18(大正7)年3月 ○ 第1回卒業式挙行(第1回卒業生68名)
 ○ この時期に寮歌作成される
 9月 ○ 同窓会設立委員会発足、同窓会会則が決まり、同窓会が発足
 ○ 同窓会の会長は当分の間本校の校長が当たる
 ○ 同窓会の代表幹事に古谷 全氏が当たる

〈北海道教育大学函館校・夕陽会の歩み①〉①



夕陽会創立百周年に寄せて 「母校・同窓会百年歴史秘話」その一

須藤 由司
(昭和52年卒)

はじめに
二〇一四(平成二十六)年、母校函館校が開校百周年を迎え、盛大に記念式典・祝賀会を開催したことは記憶に新しく、卒業生の一人として母校の歴史と伝統を振り返るとともに新たな歩みを実感した。一方、同窓会に目を向けると、同窓会単独の初の周年事業として実施した創立八十周年(平成十年)「安島 進第八代会長」、そして九十周年(平成二十年)「川島孝夫第九代会長」も既に歴史の一ページとなり、三年後の二〇一八(平成三十)年には、我が夕陽会は創立百周年を迎える。

少々早い気もするが、夕陽会報で特集を開始するとの情報を聞き、本部事務局の仕事にかかわり、お世話になった者として、図々しくも投稿することにした。もとより文才もなく、ネタも乏しいのですが、「母校愛・同窓会命」を自負する自分が執筆を手を上げてしまった。会員読者の邪魔にならないよう、母校や同窓会の話題に触れてみることにした。まず第一回目の今回は、母校開学や同窓会創立の頃の原風景をたどってみることにする。

【築百年】

大正三年四月、母校開校。そのときに竣工した校舎の正面部分は現在、夕陽記念館(正式名称は北方教育資料館、平成十一年国登録有形文化財)として威風堂々と校地北側にたたずんでいる。古建築・街並み保存の盛んな函館でも「築百年の木造学校」となれば話が違ふ。ましてや北海道教育大学五分校で現存しているそれは函館校のみである。

函館校は昭和三十四年代、開校当時の木造校舎を現在の鉄筋校舎に全面改修するときに、旧校舎は取り壊しの運命だったとか。そこで起こったのが「旧校舎の保存運動」。夕陽会は組織を挙げて当局に強くそれを要求。結果、昭和四十三年、現在地に「移

築百年」となった。当時の会長はじめ役員、会員の学舎に対する熱い思いが結実したものである。その甲斐あって残った建物、あの懐かしき校舎で学んだ師範学校・芸芸大時代の卒業生にとっては正に「夕陽の心の拠」であろう。その後、夕陽会は第六代高杉留七、第七代瀬川直光会長当時、展示品の収集・保存・展示に精力的に取り組む、現在の記念館の充実した体裁を整えるに至った。また、大学・函館分校の理解・援助と夕陽会の財政支援により数度の補修がなされたが、さすがに長きの風雪には耐えがたく痛みが激しくなっていた。そんな折、創立九十周年記念事業の目玉として移築後初の「大規模改修並びに周辺環境整備事業」を行った。そして、百周年に向け、橋田恭一第十代会長へとバトンタッチされた。

【樹齢百年】
ところで、もう一つ話題が……。移築前の校舎の位置は、桐花寮(昔も今もこの場所)から校舎へ真つ直ぐ進むと田家通り、そして旧校舎校門を入ると、新校舎時代は音楽棟、現在も音楽多目的ホールがある建物の背面となる。そこに数本の大樹が天高く……。この樹木(イチヨウ?松?)こそが、大正三年校舎竣工時に植樹したものであることは明白か。それが現在も悠々と立っている。何ということか、樹齢百(飛躍)年。専門家に鑑定していただいたわけではないので信憑性は……。当時の写真等からして開校時に記念樹、あるいは環境整備として植え

〈開校当時の函館師範学校〉②

たものであろう。校舎新築・旧校舎移築時にも伐採されずに……。四季折々の風景を記念館と共に、



〈庁立函館師範学校(大正11年7月)〉③



一度じっくり眺めてみてはいかがか。
 【第一回卒業生と同窓会(その一)】
 さて、大正七年三月、六十八人の第一回卒業生が学舎を巣立ち、全国各地で教職に就いた。その結果、絆は想像する以上に強固なものであったことは推察できる。そして、自然に母校・同窓会の思いがわいてきたのである。ここに我が「夕陽会」のルーツがある。初代代表幹事「古谷 全」氏、母校「卒業証書第一号」(記念館に展示)がその人である。さらに親子三代同窓生とは驚嘆に値する。ところで、「夕陽・夕陽会の呼称」はいつから、そして誰が命名したのか……。つづく……この辺の話題は次回への宿題といたします。秘話にはほど遠いのです

※引用・参考図書

- ①「平成二十年度版会員名簿―創立九十周年記念―北海道教育大学夕陽会二〇〇八(平成二十)年」
 ②「(ビジュアル版)九十のあゆみ」北海道教育大学夕陽会 二〇〇八(平成二十)年
 ③「写真帳函館区」一九二二(大正十一)年
 函館区役所編纂 函館市中央図書館蔵
 ※撮影Ⅱ田本 繁(日本における幕末明治写真黎明期の三先駆者の田本研造は父)



石狩支部だより

石狩支部長 河野 修一

(昭和55年卒 千歳市立北栄小学校長)

道内各地で初雪が観測され、本格的な冬の訪れを感じる頃となりました。

石狩管内は、五市、一町、一村からなり、学校数は、分校を含め小学校七十校、中学校四十一校です。

本支部は、石狩管内において教育大学五校の中で最も小さな同窓会で、会員数は百五十名あまりです。石狩管内で、同窓に出会う確率は六・五%だということです。「つながろう！小さな絆をより強く！」を基本方針サブテーマに、小さいことのメリットを生かし、会の充実・発展に向けて次のような活動をしています。会員相互の交流を図るため、「会員名簿の作成」「支部長杯ゴルフコンペ」「支会懇親会」の開催。会員の資質向上を図るため、「学習会」「ふれあいトーク二〇一五」の実施。会員相互の情報を交流し、会員の結びつきを深めるために、「会報『夕陽石狩』」の年三回発行等、各部とも校務等で大変忙しい中、意欲的に活動しています。しかし、若手の組織化、会費納入率の低下などの課題があります。これからも、魅力、価値、期待感を生む取り組みを模索していく必要があります。

また、一昨年度より、石狩管内の教育大学五校の同窓会が一堂に会して人材育成に関する情報交換の機会を持っています。特に、教頭受験者が伸び悩んでいる

ことは、全ての同窓会の懸案事項となっており、将来登用が期待される教員の情報を共有するために人材掘り出し名簿の作成を共同で進めています。各同窓会の主体性を尊重しつつ、協力して人材育成に向けて取り組んでいく必要性を強く感じているところです。

十月十七日には、札幌支部、小樽支部、後志支部、空知支部より多くの仲間をお迎えし、また、本部より遠路はるばる橋田会長様、白川副幹事長様にお越しいただき、道央ブロック会議を開催しました。各支部の活動の様子や人事、運営上の諸問題と対応等について交流し合い、今後の活動につながる有意義な会となりました。関係の皆様改めて感謝申し上げます。

私たちは、日常的に同窓を意識して仕事をしているわけではありません。しかし、同窓であることがお互いにわかり合えるうちに、自然と親近感がわき、期待や応援したい気持ちが出てきます。そんな同窓としての根本を大切に、同窓会としてやっていくべきことを整然と行っていくたいと思っています。

今後ともこれまでの石狩支部の歴史や伝統を大切にしながら、会員相互の研鑽と交流の場として、管内教育の発展に寄与する心意気を持ちながら、支部の活動を継承していきたいと考えています。

ご就任おめでとうございます

※栗山町教育委員会教育長就任 (H27/10/1)

南條 宏^亭氏 (昭57年卒)

※総務政務官就任 (H27/10/9)

森屋 宏^亭氏 (昭55年卒)

※新篠津村教育委員会教育長就任 (H27/12/1)

荒谷順一郎^亭氏 (昭55年卒)

平成二十七年年度会員名簿

についてのお知らせ

三年に一度作成することになりました夕陽会会員名簿ですが、十一月二十日現在で校正が終了していません。お手元にお届けできるのは年明けになる見込みです。次回夕陽会百周年の会員名簿に繋げるためにも精一杯努力いたしますので、会員の皆様の一層のご理解と情報提供のご協力を今後ともどうぞよろしく願います。

夕陽会組織部長 齊藤 縁

支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

森 木 純 雄 札 幌 昭 52 渋谷 和 則 余 市 昭 54
 栗 田 俊 一 札 幌 昭 52 千 石 喜 美 子 岩 手 昭 52
 栗 田 香 代 子 札 幌 昭 53
 山 下 浩 旭 川 昭 50 (平成二十七年十一月二十日現在)

夕陽会員 訃報

長沼 政春 氏 昭 31 27・3・ 笹 浪 幹 雄 氏 昭 29 27・8・5
 中西美幸氏 函館市柏木町14の13 貞子氏
 本間 玲子 氏 昭 25 27・4・28 笹 川 雄 吉 氏 昭 22 27・8・13
 七飯町鳴川2の21の4 幸一氏 札 幌 市 豊 平 区 美 園 9 の 6 の 2 の 10 節子氏
 馬庭 勝美 氏 昭 33 27・6・9 大 地 芳 幸 氏 昭 41 27・8・30
 稚内市富岡1の2の12 園子氏 函館市千代台町20の6 中村紀江氏
 西澤 繁行 氏 昭 32 27・6・11 伴 達 夫 氏 昭 31 27・8・31
 札幌市北区あいの里1の7の13の18 優子氏 札 幌 市 手 稲 区 金 山 2 の 1 の 6 の 2 晶子氏
 辻口 直弘 氏 昭 32 27・6・17 鈴 木 未 實 氏 昭 25 27・8・31
 七飯町本町7の658の29 直樹氏 恵庭市恵み野北1の9の14 直子氏
 古川 春朗 氏 昭 32 27・6・22 小 山 内 重 名 氏 昭 19 27・9・3
 苫小牧市錦岡521の139 廣子氏 函館市本通1の18の14 玲子氏
 信賀 政勝 氏 昭 22 27・6・22 永 田 敏 雄 氏 昭 23 27・9・4
 函館市人見町11の17 貴意氏 函館市西旭岡町2の47の3 顕雄氏
 大場 光行 氏 昭 17 27・6・29 佐 藤 静 雄 氏 昭 22 27・9・18
 札幌市南区川沿1の4の9の3 齊藤美音子氏 島牧村字泊63 義恵氏
 梁川整治郎 氏 昭 14 27・7・5 北 川 省 吾 氏 昭 15 27・9・29
 北広島市東共栄4の3の15 彰博氏 函館市東山2の17の8 利子氏
 加藤 常吉 氏 昭 20 27・7・12 澤 田 三 尾 氏 昭 31 27・10・20
 金沢市泉本町1の168の7 三明氏 函館市湯川町3の40の6 久江氏
 押澤 正治 氏 昭 29 27・7・17 好子氏 齊 藤 房 元 氏 昭 28 27・10・25
 函館市乃木町2の12 好子氏 函館市旭岡町19の7 チエ子氏

(平成二十七年十一月二十日現在)

前納会費制度
ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈
 その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（三年に一度の発行）の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
 前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千元
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万元
- ④平成元年以降の退職者 三万元

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二一七号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の巻頭写真は今夏、湯川地区に完成した「函館アリーナ」の全景写真です。数千人規模のイベントが可能な会場ではグレイがこけら落とし公演を開催し、その後も各種スポーツの全国大会が続々と行われ、新しい函館のシンボルとなっています。ちなみに平成三十年十月には小学校長会の全国大会が開催される予定です。

◆百周年にかかわる貴重なお写真を提供くださった乳井邦衛様、お忙しい中、玉稿をお書きいただいた須藤元幹社長様、シニア会員のお元氣な近況をお伝えいただいた近藤参与様に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

◆いよいよ夕陽会創立百周年に向けた計画も始動しようとしています。来春三月には、北海道新幹線が開通し、道南圏も新たな時代を迎えます。新たな時代にふさわしい夕陽会のありかたを考える時が来ているなど実感される今日この頃です。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(01338) 46-2235

夕陽会専用(01338) 34-5520

FAX番号(01338) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)